

世界経済外交大学での名誉博士号授与(4月30日、於:タシケント)  
林外務大臣スピーチ (和訳)

サファーエフ上院第一副議長兼世界経済外交大学学長、  
ご列席の皆様、

おはようございます。外務大臣の林でございます。今日、これまでウズベキスタンの多くの政府要人、外交官を輩出してきた世界経済外交大学において、名誉博士号を頂くことになったことを大変光栄に思います。そのご厚意に対してお礼を申し上げますとともに、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

日本とウズベキスタンの外交関係樹立30周年という記念すべき年に外務大臣としてウズベキスタンを訪問することができて大変うれしく思います。私が当国を訪問するのは初めてですが、大変多くの方から、ウズベキスタンは大変親日的な国だということを聞いてまいりました。そして心温まるおもてなしに、そのことを強く実感している次第です。

極めて良好な両国関係の背景には、ナボイ劇場の建設を始めとする戦後の日本人抑留者の貢献や、帰国の夢かなわずこの地でお亡くなりになられた方々を丁重に埋葬し、その墓地が今でもきちんと維持・管理されているという、ウズベキスタンの方々の大変ありがたいお気持ちなど、先人たちの深い心の絆が根底にあることを強く感じております。

さらには、独立後、我が国が、この国の発展に寄り添い、インフラ整備や人材育成など、さまざまな協力を行ってきたこと、そしてウズベキスタン政府も常に日本との関係を大事にされ、ミルジヨーエフ大統領をはじめとして、これまで非常に多くの要人の方々が訪日し、日本との関係を大切に育ててきたこと、などが現在の戦略的パートナーシップに発展した両国関係を築き上げた背景にあります。

その中でも、外務大臣として、また、ウズベキスタン・日本友好議連会長として長年、両国関係の発展に貢献されてきたサファーエフ上院第一副議長兼本学学長におかれては、ウズベキスタンで初めて旭日大綬章を授章されました。ここに改めてお祝い申し上げたいと思います。

サファーエフ氏が学長となられてから、新しく日本研究センターが発足するなど、本学が日本研究を新たな次元に高めようとされていることに心より敬意を表します。ここで日本研究を専攻した学生は、将来、両国関係を担う人材になるわけであり、我が国としても、本学における日本教育、研究の質を高めるためにできる限りの支援をしていきたいと思います。藤山大使(大使館)はサファーエフ氏とよく相談をしてもらえればと思います。

ロシアによるウクライナ侵略は、明白な国際法違反であり、欧州に留まらず、アジアを含む国際秩序全体の根幹を揺るがす深刻な事態であることを強調いたします。ロシアに一刻も早くかかる暴挙を止めさせるため、国際社会が一致して努力をしているところです。本学の学生の皆様方には、国際社会の平和と安定を確固たるものにするため、世界で活躍できる人材に育てて頂きたいと思います。

あらためまして、今回、本学の名誉博士号を頂けることに深く感謝しつつ、ご挨拶とさせて頂きたいと思います。  
ご静聴ありがとうございました。

(了)